

3. かたどる色：マチスの切り紙絵

20世紀を代表する画家マチスは、「フォーヴ(野獣)」のようだと評された強烈な色彩によって知られていますが、彼が生涯をかけて探究した問題は、「線」と「色」という美術の歴史において長く対立する要素をいかに調和させるかということでした。そうした問題意識を抱えながら、1930年代後半から40年代初頭にかけてマチスは油彩画から離れ、水彩画や、インクや木炭の線によるドローイング、そしてパステル画など多様な画材に挑戦しています。こうした模索の背景には、このころ病気で大きな手術を受けるなど身体的な不自由に悩まされたことも理由にありました。

なかでも、「線と色彩の調和」の問題に対してマチスの出したひとつの答えが「切り紙絵」です。「切り紙絵」とは、グワッシュを塗った紙からハサミでモチーフを切り出し、紙の上に配して構図をつくるものです。「ハサミでデッサンする」という彼の言葉が示すように、ドローイングで線を描くようにハサミで切り出した線で描くこと、色の塊を彫刻のように切り出していくことがマチスにとっては、色をかたどること、線と色とを調和させることだったのです。

造形上の問題を、それまでの絵画の概念を覆す手段で解決しようとしたマチス。絵画を素材から見るこの展示会は、マチスのこうした軌跡を辿りながら、『ジャズ』をひとつの到達点として締めくくられます。



アンリ・マチス 『ジャズ』より 1947年発行 ステンシル／紙
 左上から：《イカルス》(第8図)、《かたち》(第9図) 左下から：《サーカス》(第2図)、《礁湖》(第17図)

『ジャズ』とは？

挿絵本『ジャズ』は、切り紙絵をもとに1947年9月30日に、雑誌『ヴェルヴ』を発行していたマチスの友人テリアードの出版社から刊行された版画集です。原画となる切り紙絵は当初サーカスをテーマに1943年から始まり、1946年に「ジャズ」の名前が付けられました。この原画から色の再現性にこだわりながらステンシル版を用いて印刷されました。

マチスにとっての色と線

「色彩はそれ自身で存在し、特有の美を備えています。」(マチスの言葉 1947年)

1904年頃、マチスは新印象派のシニャックと制作を共にし、色彩理論にもとづいた明るい点描の作品を制作しています。その翌年には、「フォーヴ(野獣)」と呼ばれる強烈な色彩でセンセーションを巻き起こしました。その後、理論化を含めて色彩への探究は生涯にわたって続けられました。

「私の線画は私の感動の直接の、もっとも純粋な翻訳である。」(マチスの言葉 1939年)

一方で、マチスは画業の初期に、フォーヴの画家として伝統的なデッサンの技法から脱し、色彩と一体となった独自の線の表現を確立しました。彼は、線とは画家が目にした感覚を直にとらえたものであり、それだけで光や色を感じさせることができると考えました。しかし、色彩の探究とともに、徐々に線と色は乖離してしまいます。「線と色彩の永遠の葛藤」というマチスの問題意識は、こういった状況の中で生じたものでした。

《同時開催》

企画展 「ルノワール礼讃 ルノワールと20世紀の画家たち」展・・・2013年12月1日(日)～2014年4月6日(日)まで
 常設展示「ポーラ美術館 ガラス工芸名作選」……………2013年12月1日(日)～2014年4月6日(日)まで
 「ポーラ美術館の日本の洋画、日本画」……………2013年12月1日(日)～2014年4月6日(日)まで

News Release

〈報道関係 各位〉

2013年10月
 ポーラ美術館

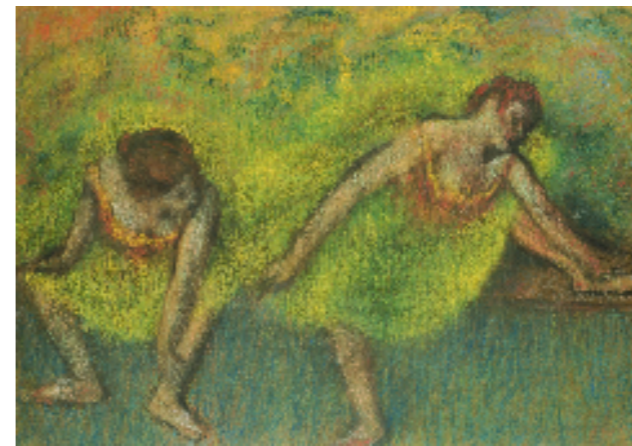
〈特集展示〉

「いろどる線」と「かたどる色」

ドガのパステル、シャガールの水彩、マチスの『ジャズ』

2013年12月1日(日) - 2014年4月6日(日)

会場：ポーラ美術館 展示室2



【報道に関するお問い合わせ】

ポーラ美術館 広報事務局 担当：増田、後藤、三井 Tel 03-3575-9823 / Fax 03-3574-0316
 ポーラ美術館 広報担当：比良田(ひらた) Tel 0460-84-2111 / Fax 0460-84-3108

ポーラ美術館ではじめて、絵画を「素材」から見なおす展覧会！

絵画における素材は、油彩をはじめ水彩やパステルなど多岐にわたり、画家たちはどんな色や線で形をつくるかという問題に向き合い、素材の特徴を活かして表現しています。この展覧会では、素材の特質に着目しながら作品をご紹介しますことで、画家が制作過程において素材に託した、意図や表現に迫ります。

本展では1940年前後に油彩画から離れ、線と色を調和させるべく、様々な技法に挑戦しつつ、切り紙絵による『ジャズ』へと至ったアンリ・マティスを中心に、デッサンを重視したドガによるパステル画や、シャガールとデュフィによる水彩・グワッシュの作品を展覧します。

みどころ

1. パステル、油絵具、グワッシュ…絵画を描く素材について、あらためてご紹介！

油絵具、パステル、水彩絵具などがどういったものからできているのか、それぞれの素材の違いや、描くときにどのようなプロセスを経るのか等、サンプルを展示して解説します。また、ドガが使った「ラ・メゾン・デュ・パステル」社の最高級のパステルや、絵画の素材についてわかりやすく解説した「画材と素材の引き出し博物館」(目黒区美術館蔵)の一部を展示します。

2. ドガ、マティス、シャガール…充実のコレクションを一堂に展示！

日本最多を誇るドガのパステル画9点やシャガールのコレクション6点、そしてマティスの切り紙絵『ジャズ』20点など、紙に描かれた作品の充実したコレクションを一堂に展覧します。

3. 鑑賞の手助けになるリーフレット「よくみるガイド(仮)」を配布！

画材の特徴とみどころをわかりやすくまとめたリーフレット『よくみるガイド(仮)』を会場にご用意して、展覧会の作品から素材を最も楽しめる部分をクローズアップしてご紹介します。

展覧会構成

1. いろどる線：パステル

わずかな量の媒材で固められたパステルは、顔料の色を媒材によって濁らせることなく、強い色彩を出すことのできる素材です。鮮やかな色彩で線をひくことができるパステルは、印象派の画家と活動を共にしつつも古典的な素描を重視し、「私は線を用いる色彩画家だ」と語るドガにとって、理想的な画材でした。

パステルとは？

「パステル」は、色の素である「顔料」そのものに近い絵具。「媒材」をほとんど用いずに固めて作られます。

「パステル」の特徴は・・・

1. 色鮮やかな発色！
2. 手や指を使ってぼかす、こするなど多彩な表現ができます。
3. 乾くのを待たずに、重ね描きできます。

「パステル」とクレヨンってどう違うの？

児童画用に広く普及しているクレヨンは、顔料にロウや油脂を加えて練り固めています。パステルに比べて描きやすく、明快な色味が得られます。

*パステルには、油分が多く含まれクレヨンに似たオイルパステルという種類のものがあります。



エドガー・ドガ マント家の人々
1879-1880年頃 パステル/紙



エドガー・ドガ 休息する二人の踊り子
1900-1905年頃 パステル/紙



エドガー・ドガ 踊りの稽古場にて
1884年頃 パステル/紙



エドゥアール・マネ ベンチにて
1879年 パステル/カンヴァス

2. 色をかさねる：水彩

水彩は水溶性の媒材を使用した絵具で、その性質から「透明水彩」と「不透明水彩」とに分けられます。油彩画の準備段階での制作、習作としても用いられますが、シニャック、デュフィ、シャガールのように、水彩ならではの明るく軽やかな表現に愛着やこだわりを持って制作した画家も多くいます。



ポール・シニャック レ・サブル・ドロンヌ
1929年 水彩、鉛筆/紙

画面中央の船と、ゆらめく水面への反映の描写には、淡い色が並置され、紙の白い地を活かした、透明水彩らしい明るく軽やかな表現がみられます。



マルク・シャガール プリム祭、壁画のための習作
1916-17年頃 グワッシュ/紙(厚紙に貼付)
(c)ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2012, Chagall® E0727

素材を知りたい！

水彩絵具、パステル、油絵具、…「絵具」って何からできてるの？

絵具は、色のもととなる「顔料」と、それを練る「媒材」からできています！

「顔料」は色の粒子。粉状のものです。鉱物や植物等からつくる天然顔料と、化学物質からつくる人工顔料があります。

「媒材」とは「顔料」を画材として使うために練る溶剤のことです。顔料は粒子なのでそのままでは画材として使えません。紙やカンヴァスに塗ることができるようにするためには、画面の上に伸ばしたり、固着する性質が必要です。そのために「媒材」で練るのです。

紙やカンヴァスなど描かれるものを「支持体」とよびます。特に水彩やパステル用の紙には、色や目の粗さなどによって多くの種類があり、同じ絵具の色でも、紙によって色の見え方が異なります。

水彩絵具とは？

「透明水彩」と「不透明水彩」に分けられ水を加えるだけで描ける絵具です。媒材の違いにより、それぞれ表現に特徴があります。

「透明水彩」は紙の白い地を活かして、絵具を薄塗りで重ねたりやわらかな色合いで混色するのに適しています。にじみやぼかしの効果を活かせるのも特徴です。

「不透明水彩」は厚塗りや重ね塗りができる水彩絵具です。透明水彩に比べ顔料の割合が多いため、比較的力強い表現ができます。美術館の展示パネルでよく見かける「グワッシュ」は、不透明水彩を代表する絵具です。

*学校教育で使われる水彩絵具は、「透明水彩」と「不透明水彩」の両方の使い方ができるようにつくられています。また安全性にも配慮されています。



「顔料から絵具へ」目黒区美術館蔵
(「画材と素材の引き出し博物館」より)